史跡

７２．無縫塔　２基

■指定年月日　昭和 63 年 3 月 18 日（1988）
■所　在　地　上戸町寺社 18-22
■所　有　者　永禅寺
■寸　　法　右　塔：高 50cm　径 56.5cm
右台座（欠損）：高 26cm
左　塔：高 43cm　径 54.9cm
左台座：高 22.5cm　幅奥行共 51.5cm

上戸町の永禅寺（通称蟹寺）の境内入口の左側にツバキの古木（目廻り 135cm）3 本が、昼なお暗く 2 基の石塔を覆っている。

周囲に石をめぐらした高さ 55cm、一辺約 200cm の方形台上に、曽我兄弟の墓と伝える 2 基の無縫塔が並んで建っている。無縫塔とは、主に僧侶の墓に使われる石塔形式で、塔身が卵形をしているので卵塔ともいう。この塔身は高さより直径の大きい球形で、台座は方形で反花座を彫出す。石材は 2 基とも硬質の凝灰岩を使用する。塔・台座とも重量感の満ちた様式で、羽咋市の永光寺開山塔に相通ずる。無縫塔としては古様な遺例で、室町時代の造立と認められる。

永禅寺の開山について、貞享 2 年（1685）の由緒書上では「建立之施主者知不申候」とあるが、寺の過去帳では開基を曽我十郎・五郎の兄弟としている。曽我兄弟は、建久 4 年（1193）に起こした有名な仇討ち事件により、兄は討ち死、弟は処刑されている。その菩提を弔うため、十郎の妻虎御前がこの地に来て墓を建立したと伝える。しかし今は、永光寺 2 世明峰素哲の法弟月庵珖瑛によって暦応元年（1338）に開かれたと考えられている。『能登名跡志』に「月庵和尚は俗姓曽我家の人にて至って美僧なりといへり」とある。